

ルカ自分ハ直接電文ヲ見サリシ旨語レル趣ナリ
右沈ノ辭表提出ハ曩ニ本官ノ要求ニ依リ事件ノ直接責任者トシテ公安、社會兩局長ノ職ヲ免シ(表面辭表聽許ノ形ニテ一月一日實行ノ由)タル關係上自分モ中央ノ慰留ヲ豫期シテ申譯のニ爲シタルモノト察セラルル處陸軍特務機關ニ於テハ右情報ヲ得ルヤ直ニ其ノ後任トシテ石友三、王芳亭ノ何レカ力適當ナルヘキ旨天津軍ニ通知セル處軍側ヨリ何レモ異議ナキ旨ノ回答アリタル趣ナリ田尻武官ハ右兩名ノ外支那第三艦隊ト良キ賈德耀モ適任ナルヘシトノ意見ナルニ對シ矢萩少佐モ異議ナキ旨述ヘ居レリ
尙特務機關ハ國民政府ニ於テハ後任トシテ殷同又ハ余晉蘇ヲ擬シ居ル處軍側ニ於テハ殷同ハ北寧ヲ追ハレタル經緯、同人ノ金錢ニ對スル嗜好、當地ニテ製鹽業ニ從事シ居ルコト等ヨリ沈以上ニ不適任ト考ヘ居リ余晉蘇ハ可モナク不可モナシ位ノ所ナルモ軍ニテハ贊成シ居ラサルニ付(本官ハ

豫テ私見トシテ余ヲ推シタルニ陸海軍武官共左シテ異議ナカリシコトアリ)南京方面ニテモ成ルヘク前記三名ノ何レカノ就任ヲ見ル様努力願度キ旨述ヘ居ル處本官ニ於テモ過般ノ紡績罷業ニ於ケル沈市長ノ遣口等ヨリ見ルモ其ノ辭職ハ惜ムニ足ラサルノミナラス寧口適當ノ後任アラハ積極的ニ之ヲ交替セシムルコトモ必要ナルヘシト思考シ今次ノ紡績罷業關係ノ交渉ノ際モ今後留任ヲ望ムカ如キ言辭ハ一切慎ミタル次第ナルカ要ハ其ノ後任者カ我陸海軍ニ氣受宜シキ外韓復榘トノ關係モ良ク將來北支經濟開發ニ或程度積極的ニ協力シ得ルト共ニ支那第三艦隊トモ適當ノ聯絡ヲ付ケ得ル人物ナルコトヲ理想トシ右ニ當嵌マル者ナラハ敢テ前記三名ニ限ル要モナシト思考シ居レリ
支、北平、在支各總領事ヘ轉電セリ
支ヨリ上海ヘ轉報アリタシ

6 青島方面への中国税警団移駐問題

354 昭和12年3月30日 在濟南有野總領事より
佐藤外務大臣宛(電報)

青島への税警団派駐を財政部決定との韓復榘
内話について

濟南 3月30日後発
本省 3月30日夜着

第五二號

本官發青島宛電報

第一四號

二十九日韓復榘ノ内話スル所ニ依レハ財政部ハ今回青島ノ密輸出、入取締ヲ強化スル爲新ニ青島ニ税警團ヲ派駐スルコトトシ此ノ旨最近中央ヨリ内達シ來リ目下青島側ニ於テ團兵ノ配置方法等計畫中ナル趣ナリ御參考迄
大臣、支、上海大使、北平、天津、芝罘ヘ轉電シ坊子、博山、張店ヘ暗送セリ

355 昭和12年5月8日 在青島大鷹總領事より
佐藤外務大臣宛(電報)

税警団を招致したのは沈鴻烈青島市長の策動
であるとの情報について

青島 5月8日後発
本省 5月8日夜着

第一二五號

一、黃杰ノ率ユル第二師ヲ以テ税警團ノ名目ニテ山東省内ニ引入レタルハ(右正規兵ハ鐵兜、銃劍ヲ有シ靈山灣ヨリ上陸シ税警團服ニ着替ヘタルモノナル由)沈市長ノ策動ニ依ルモノノ如ク偶々邦字新聞カ之ヲ素破抜キタル爲沈ハ狼狽シテ係員ヲシテ館員ニ對シ右ハ事實無根ノ旨頻リニ陳辯セシメタル趣ナルモ石野武官ハ本官ニ對シ韓復榘ヨリ極秘ト前提シ沈ノ策動事實ナルコト聞込ミタル旨語レリ

二、市政府李警察局長ハ六日夜突然田尻武官ヲ來訪シ北平ヨリ綏(遠)方面ニテハ日支交戰中ニテ近ク青島方面ヘモ日本軍到着ノ筈ナリトノ情報ニ接シタル處右様ノ事實アリヤト眞面目ニ尋ネタルヲ以テ同武官ヨリ一笑ニ附シ置キ

タル趣ナルカ昨今當地方支那側官民ハ相當神經過敏ニナリ居レリ他方土屋坊子主任ノ報告ニ依レハ濰縣附近ニ「トーチカ」築造ヲ計畫シ且下濰縣驛ニハ多量ノ「セメント」輸送セラレツツアル趣ナリ

支、在支各總領事、北平、滿ハ轉電セリ

356 昭和12年5月9日 在濟南有野總領事より 佐藤外務大臣宛(電報)

税警団の規模、実力および青島への配備の目的等に関する韓復榘の説明について

濟南 5月9日前発
本省 5月9日後着

第八五號

青島發閣下宛電報第一一六號ニ關シ

七日韓復榘ノ内話スル所左ノ通り

「今回中央ヨリ派遣ノ税警團ハ總員三千名ニシテ從來大部分海州ニ駐屯シ居タルモノナリ全部ノ移駐ニハ猶多少ノ日子ヲ要スル筈ナルカ先着部隊ハ目下城陽及即墨一帶ニ到着シ各所ニ散宿シ居レリ

ニ右税警團ハ全部青島市政府管内ニ配置セラルル豫定ニシテ(往電第五二號參照)目下沈市長ニ於テ營舎ノ新築及借入ニ着手シツツアリ準備整ヒ次第同管内ニ移駐スル筈ナリ

三、本税警團ハ一團ト稱スルモ普通軍隊ノ二團以上ニ相當シ兵器モ銃器ハ勿論野砲機關銃等ヲ有シテ其ノ團員ハ全部一應軍隊ノ訓練ヲ受ケタル上本團ニ編入シタルモノナレハ軍隊以上ノ實力ヲ有ス

四、(本月四日附坊子發閣下宛機密公第一一三號ニ關シ本官ヨリ質問シタルニ對シ)

濰縣方面ニ於テ現ニ軍事的施設ヲ爲シツツアルハ事實ナルカ右ハ税警トハ關係ナク昨年以來ノ中央ノ命令ニ依リ實施シ居ルモノナリ中央ヨリハ濰河ノ線ニ沿ヒ祕密ニ砲臺「トーチカ」等ノ設備ヲ爲スヘク經費ハ中央及山東各半分宛分擔スヘシトノ命令アリシカ自分ハ今日迄經費ノ餘裕ナシトテ承諾セサリシ爲中央ヨリ然ラハ全額中央ニテ負擔スヘシト申シ來リ其ノ結果已ムヲ得ス中央ノ負擔ニテ工事ヲ爲シツツアル次第ナリ云々

ノ内本官ヨリ税警團ノ斯ノ如ク大部隊ノ配置ハ眞意那邊ニ

357 昭和12年5月11日 在青島大瀧總領事より 佐藤外務大臣宛(電報)

税警団は旧十九路軍の関係者が多く軍規不良であるなど同団に関する情報について

青島 5月11日後発
本省 5月11日後着

第三三二號

往電第一二五號ニ關シ

當館及陸海軍武官ノ其ノ後ノ情報ヲ綜合スルニ

一、税警團ハ未タ青島ニ入市シ居ラス(冒頭電當地上陸ハ誤リ)南泉城陽方面ニ駐屯シ(往電第一一六號參照)居ル外尙海州方面ヨリ陸路海岸傳ヒニ約二箇團北上シツツアル模様ナルカ何レモ舊十九路軍ニ屬スル陸兵多ク軍規極メテ不良ニシテ強盜掠奪ヲ爲スモノアル趣ナリ右ニ關シ谷萩武官ノ極メテ信スヘキ筋ヨリノ情報トシテ傳フル所ニ依レハ沈市長ハ税警團カ青島ニ駐屯セハ事毎ニ市政ニ干渉スルヲ恐レ同團入市ハ日本側ニ種々策動ノ口實ヲ與フヘキコトヲ理由トシ中央ニ税警團入市取止方電請セル處中央ヨリ本件カ沈ノ提案ニ基クニ拘ラス今更中止ヲ求ム

尙本官ヨリ税警團ハ素ヨリ主席ノ管轄ニアサルモ其ノ行動如何ハ主席ノ權限タル山東ノ治安及邦人ノ安(主)保障ニモ影響ヲ及ス次第ニ付(冒頭電一ノ末段ヲ指摘シ置ケリ)此ノ點特ニ注意アリ度シト警告シタルニ韓ハ適當ノ機會ニ團員ニ對シ平地ニ波瀾ヲ起スカ如キコトナキ様注意スヘシト答ヘタリ(以上韓ノ立場モアリ發表等ノ際ハ其ノ邊特ニ御注意相成度シ)

支、北平、在支各總領事ハ轉電シ、芝罘、坊子、張店、博山ハ暗送セリ

ルコトノ不都合ヲ責メラレ居ル趣ナルカ(韓復榘モ沈ニ對シ快ク思ヒ居ラサル由)斯ル事情ヨリ未タ稅警團ノ入市ニ至ラサルモノノ如シ

尙韓復榘軍約七百名ハ南泉附近ニ塹壕ヲ構築シ稅警團タル中央軍ニ對スル警戒ヲ爲シ兩々相對峙ノ形勢ナル趣ナリ

③中央ハ滿洲及青島ニ海。青。警備司令部ヲ設ケ沿岸ノ治安及防備ニ任セシムル計畫ナルカ未タ實現ニ至ラス

④往電第一一四號ノ一謝司令ノ北平行キハ(北平ヨリ威海衛ニ赴キタルハ誤)主トシテ南京ノ意ヲ受ケ宋哲元ノ腹ヲ確メ且之ヲ説得ノ爲ニシテ支那中央ノ考トシテハ日本側ノ綏遠、山西方面ニ對スル戰略行動挫折ノ結果山東方面ニ軍事行動ヲ起シ來タルヘキヲ豫想シ宋哲元ト韓復榘トヲ連結シテ日本側ニ對抗セシメントスルニアルヘシトノコトナリ尙田尻武官ノ意見トシテハ支那第三艦隊ハ從來ト異ナリ直ニ我カ艦隊ト衝突ハ免カレサルモノト認メラル由

支、在支各總領事、北平へ轉電セリ

稅警團は宋子文前財政部長との關係が深いとの情報について

上海 5月12日後発
本省 5月12日夜着

第二三七號

青島發閣下宛電報第一三二號ニ關シ

十二日中央社馮。支社長ハ八谷ニ對シ稅警團ハ宋子文カ財政部長當時組織シタルモノニシテ精銳ナル武器ヲ有シ現在約一萬五千見當ノ勢力ナルカ蔣介石ハ客年春頃黃。杰。ヲ總師團長(黃ハ最近隴海線東段警備司令兼任トナル)ニ任命シ同團ヲ自己ノ色彩ニ塗替ヘツツアルモ其ノ上層ニハ今尙宋子文ノ腹心多數ヲ占メ居ル次第ナル處最近青島方面ニ移動セル稅警團ハ曾テ閱。行。ニ在リ上海事變ニ參加シ事變後海州一帯ニ移駐シタルモノニシテ或ハ少數ノ舊十九路軍モ混リ居ルコトアルヘシト内話セル由

支、北平、在支各總領事へ轉電セリ

360 昭和12年5月12日

在青島大鷹總領事より
佐藤外務大臣宛(電報)

358 昭和12年5月11日
在青島大鷹總領事より
佐藤外務大臣宛(電報)

稅警團の青島市内進駐は不測の事端發生の懸念がある旨市長へ警告について

青島 5月11日後発
本省 5月11日夜着

第一三五號

往電第一三二號ニ關シ

稅警團ノ當方面移駐ハ相當居留日鮮人ノ神經ヲ刺戟シ且軍規紊亂セル團(往電第一三四號參照)ノ入市ハ如何ナル事端ヲ發生スルヤモ計リ難キニ付本官不取敢十日沈市長ヲ往訪シ警告ヲ與フル一方居留民ニ對シテハ靜觀的態度ヲ持シ輕舉妄動ヲ慎シマシムル趣旨ニテ陸海軍武官トモ聯絡ヲ執リ不良浪人ノ策動等ハ嚴重之ヲ取締ルコトニ打合せ尙新聞等ニモ刺戟の記事ヲ差止メ置ケリ

支、在支各總領事、北平へ轉電セリ

359 昭和12年5月12日
在上海岡本總領事より
佐藤外務大臣宛(電報)

陸軍正規兵によって編成された稅警團の青島市内進駐は山東還付會議の精神に鑑み不都合につき善処方市長へ要求について

青島 5月12日後発
本省 5月12日夜着

第一三八號

往電第一三五號ニ關シ

十一日日本官沈市長ヲ往訪シ陸軍正規兵ヲ以テ編成セル稅警團カ青島近接地ニ集結シ更ニ市内ニ駐屯セントスル趣ナル處條約ノ正文ハ別トシ山東還附會議ノ精神ニ鑑ミ支那軍隊ノ入市ハ面白カラサルニ付市長ノ善處方ヲ求メタリ

右ニ對シ市長ハ元來稅警團ハ財政部ニ屬シ緝私隊ト同様專ラ脫稅捐取締ニ當ル役目ニシテ山東方面ニハ數年前ヨリ若干駐屯シ居リタルカ今般鹽稅引上ニ伴フ脫稅者増加ヲ見越シ財政部ハ舊部隊ヲ更迭セシメ新部隊三營約千五百名ヲ派遣シ來リタル譯ニテ右部隊ハ鹽田所在地タル紅。石。崖。ヨリ城陽ニ至ル膠洲灣沿岸ニ配置セラルヘク青島市外ニハ鹽田ナキヲ以テ配置セラルコトナカルヘシ唯支那軍隊カ青島ニ駐屯スルコトハ條約上ノ明文乃至精神ニモ違反スルモノニ

アラスト強辯セルヲ以テ本官ハ王正廷カ小幡公使ニ對シ支那側ハ青島還附後ノ警備ハ警察ヲ以テ當ラシムル旨言明シ居ルヲ指摘シ爾來支那正規兵ノ駐屯ヲ見スシテ今日ニ至レルニ今市長ヨリ右ヲ無視スル如キ言辭アルハ甚タ遺憾ナリ最近沿線各地ノ「トーチカ」築造、陸戰隊ノ増加、新聞ノ排日論調等各般ノ情勢ハ總テ抗日方針ノ下ニ工作セラレ居ルモノト思ハシムル際素質不良ノ稅警隊ノ來着ハ既ニ鮮人家屋ニ強盗入ヲセル事件ヲ發生シ一般在留邦人ノ不安ヲ増大シ日支關係ヲ甚タシク惡化セシムル惧アル旨述ヘタルニ沈ハ自分ハ實力ハ有セサルモ青島市内ニ於テ稅警團員ノ不埒ノ行動アラハ充分取締ルヘキ旨申シ居タリ

右會談中沈ハ昨年夏頃ヨリ我カ陸軍側ヨリ受ケタル壓迫ノ苦痛ヲ訴ヘ支那ノ獨立性ヲ強調スル所アリタルニ付本官ハ支那トシテハ飽迄日本陸海軍ヲ刺戟スル措置ヲ控フルコトコソ却テ支那ヲ愛スル理ナラスヤ此ノ際稅警團ノ兵力モ從前通りノ數ニ復スルコト能ハスヤト尋ネタルニ沈ハ明答ヲ回避セリ會談中正規兵ヲ青島ニ入ルルモ何等條約ニ觸ルルモノニアラスト反復力說セルハ支那側態度トシテ最モ注目ニ値スル點ト認メラレタリ

支、北平、在支各總領事へ轉電セリ

昭和12年5月14日 佐藤外務大臣より
在青島大鷹總領事宛(電報)

361 稅警團青島市内進駐問題に対する措置振り訓令

第六七號(極秘、至急)
貴電第一三八號ニ關シ

「今次稅警團ノ北上ニ關聯シ十二日貴地谷萩武官ヨリ陸軍本省ニ對シ山東協定ニ依リ抗議方意見具申ノ次第アリ、軍側ヨリ右ニ關スル當方意見ヲ求メ來レルヲ以テ係官ヨリ一應ノ意見トシテ(1)山東鐵道沿線撤兵ニ關スル協定ハ本件トハ直接關係ナカルヘク(2)支那側ニ對スル關係ハ別トスルモ山東懸案細目協定第一委員會ニ於ケル王正廷ノ言明モ條約論トシテハ將來ノコト迄約束セルモノトハ遽ニ斷シ難シ(3)仍テ稅警團ノ行動ニ付支那側ノ注意ヲ喚起スルトセハ目下ノ措置トシテハ條約論ヲ離レ南京ニ於テ北支殊ニ山東ニ對スル我方ノ重大ナル關心ニ付國民政府ノ注意ヲ喚起スルト共ニ稅警團ノ山東進出ニ依リ日支間

ニ不測ノ事件ヲ惹起スルカ如キコトナキ様政治的の見地ヨリ警告ヲ發スルノ程度ニ止ムルコト可然キ旨(尤モ右警告モ實ハサシテ實効ヲ期待シ難キノミナラス右政治論ニ依ル時ハ自然山東全体ヲ目標トスルコトナリ從テ(3)ノミニテハ恰モ我方ニ於テ青島ニ關スル既往ノ經緯ヲ輕視シ居ルカ如キ印象ヲ支那側ニ與フルノ惧アリ)説明シ置キタル經緯アリ

三、右(3)括弧内トノ關係モアリ、冒頭貴電ノ措置ハ青島總領事ノ申入トシテ機宜ニ適セルモノト思考セラルル處今後萬一稅警團ノ入市ヲ見ルカ如キコトアランカ(冒頭貴電未段沈市長ノ條約論ハ暫ク措キ、中段同市長ノ談ニ依レハ稅警團ハ女姑口驛以東ニハ入り來ラサル様ニモ見受ケラルル處一方濟南來電第五二號及第八五號等ニ依レハ同團ハ結局青島市政府管内ニ配置セラルルモノトモ觀測セラル)不測ノ事態發生セサルヲ保シ難キ次第ナルニ就テハ此ノ上トモ各方面ト連絡監視セラレ尙稅警團入市ノ虞アリト認メラルル時ハ更ニ沈市長ニ對シ青島ノ土地柄ニモ鑑ミ此ノ種徒ニ日本側ノ感情ヲ刺戟シ無用ノ誤解ヲ發生セシムルカ如キ措置ニ出テサル様冒頭貴電ノ「ライン」

ニ依リ嚴重警告方御取計相成度シ

支、北平、在支各總領事ニ轉電セリ

昭和12年5月14日 在坊子土屋(波平)出張所主任より
佐藤外務大臣宛(電報)

362 稅警團問題および濰県における軍事施設建設
に關する濰県中国側軍事責任者の説明振りに
ついて

坊子 5月14日後発
本省 5月15日前着

第四號

支那側ノ軍事備設及稅警團問題ニ關シ十三日濰縣七十四師長李漢章ヲ訪問聞質シタル點左ノ通り御參考迄

「稅警團ハ青島ヲ中心ニ海岸線ニ配置シ鹽稅、密輸ノ取締ニ任ス我部隊ト對立シ居ルトノ日本新聞ノ報道ハ誤解ナリ支那ハ國內既ニ統一サレ總テ中央ノ指揮ニ依ルモノニシテ韓復榘、沈市長トシテモ反對シ居ル筈ナシ

三、軍事施設ニ付經費、材料(現地ニ於テ求メラルルモノハ現地ニテ)ハ總テ中央ヨリ提供セラルル工事ハ各駐防地區

司令カ各々責任ヲ負フモノニテ自分部隊ノミニアラスニ十二師(谷良民師長)モ既ニ同様ナリ其ノ規模ハ獨逸「ライン」ノ防禦陣地ニハ及ハサルモ施設ヲ模倣ストノ口吻ナリ

三、支那ハ國內統一シ餘力生シタルヲ以テ國防ヲ充實シ國民ヲ訓練シ國家ノ向上ヲ圖ルモノナリ現在ノ國防施設ハ恰モ我家ノ建物雨露ニ荒サレ之ニ修繕ヲ施スト同様ニテ毫モ日本ニ對抗スルノ目的ニアラス支那ハ日本ト提携スル意思充分アリ尤モ支那ハ日本ヨリ攻撃ヲ受クル場合ハ國防線ニ依リ死守スルコトアルモ我ヨリ先ニ手出スルコトハ絕對ニナク専ラ日本ノ出方ニ依ルノミ例ヘハ昨年十二月青島ニ於ケル陸戰隊上陸事件ニ對シ我部隊ハ前線ニ出動防(禦)ニ就キタルカ如シ

四、李漢章ハ中央系ニシテ韓復榘ヲ出シ拔キ中央ノ指揮ニ依リ國防第一線ニ立ツモノナリトノ噂アリトノ質問ニ對シ依然軍閥割據時代ノ經歷ヨリ見タル日本人ノ古キ觀察ナリ全國統一シタル新時代ノ支那ニ於テハ最早何等ノ系統モナシト打消シタリ

五、國防充實ト國民訓練ハ結構ナルモ民衆ノ指導ヲ誤リ抗日

タル上即時退去セサレハ銃殺スヘシト拳銃ヲ突付ケ強迫且毆打シ家宅搜索ノ上金品(數百圓ニ上ル)ヲ強奪シ去リタルヲ以テ鮮人七名ハ同日夕方青島ニ避難セル趣ナルカ更ニ十六日午後二時過冒頭往電白金童方二十數名ノ稅警團員來リ白カ未タ同地ヲ退去セサルヲ理由ニ家族ヲ縛上ケ家宅搜查又ハ身體檢査ヲ爲シ現金四十八圓ヲ強奪シ即時退去セサレハ銃殺スヘシト強迫シタルヲ以テ一行三名同日夕方青島ニ避難セル趣ナリ

右ニ關シ鮮人方面ニテハ度重ナル稅警團員ノ暴行ニ對シ實力ヲ以テ報復スヘシトテ敢死隊ヲ募集シ南泉方面稅警團ヲ襲ハントノ計畫アルヤノ聞込アリタルヲ以テ(十六日夜多數ノ鮮人朝鮮人會ニ集合シ居リタリ)陸海軍武官トモ聯絡シ輕舉妄動ヲ慎ムヘキ旨嚴重說諭シ居ル次第ナルカ今後尙稅警團ノ斯ル理由ナキ暴行掠奪カ繼續セラルルニ於テハ如何ナル事態ヲ惹起スルヤモ測ラレサルニ付省政府ヨリノ注意(濟南發閣下宛電報第八五號末段參照)ト共ニ(尙此ノ上トモ濟南總領事ニ於テ絶エス韓復榘ニ警告方煩度シ)大使館ヨリモ南京政府ニ對シ嚴重警告ヲ發シ暴行ヲ繰返ササル様速ニ措置セシムル要アリト存ス

思想昂進日支間ノ地方問題頻發ハ面白カラスト注意ヲ喚起シタル處自分ハ常ニ日支間ノ圓滿ヲ希望スルモノナリ曩ニ各驛乘客取締ニ付テモ貴館員ニ一任シタル如ク又教育程度低キ兵士ニテハ問題ヲ惹起ス惧アリシニ鑑ミ憲兵ヲ以テ代ラシメタル處成績良好ナルカ之モ近ク引揚クル積リナリト語レリ

青島、濟南へ轉電シ支、上海、天津、張店、博山へ暗送セリ

363 昭和12年5月17日 在青島大廳總領事より 佐藤外務大臣宛(電報)

南泉において稅警團による朝鮮人への暴行事件發生について

青島 5月17日後發 本省 5月17日後着

第一四四號

往電第一三四號ニ關シ

朝鮮人會ヨリノ報告ニ依レハ十五日午後三時半過稅警團員十七、八名南泉居住ノ數名ノ鮮人宅ニ侵入シ鮮人ヲ縛上ケ

支、在支各總領事、北平へ轉電セリ

364 昭和12年5月18日 佐藤外務大臣より 在中國日高臨時代理大使宛(電報)

稅警團の暴行事件につき一切の要求を留保する旨および中國政府がすべての責任を負うべき旨を中國側へ申入れ方訓令

本省 5月18日發

第七二號

青島發本大臣宛電報第一四四號ニ關シ

青島來電第一四三號、第一四〇號及一四四號等稅警團ノ行爲ハ甚ダ不都合ノ次第ニ付青島宛往電第六七號御含ミノ上稅警團ノ山東方面進出ニ對シ國民政府ノ注意ヲ喚起セラルルト共ニ前記稅警團ノ暴行ニ對シ不取敢(一切ノ要求ヲ留保スベキ旨竝ニ(二)本件ニ依リ生ズベキ一切ノ事態ニ對シ國民政府ニ於テ責任ヲ負フベキ旨嚴重申入相成度シ

北平、在支各總領事へ轉電セリ

南京へ轉報アリ度

365

昭和12年5月19日

在中国日高臨時代理大使より
佐藤外務大臣宛(電報)

税警団暴行事件に関するわが方意向を外交部
へ申入れについて

南京 5月19日後発

本省 5月20日前着

第三三四號

貴電第七二號ニ關シ

本十九日王外交部長不在ニ付本官高司長ト會見口頭ヲ以テ冒頭電御訓令ノ趣旨ヲ篤ト申入レタル處高ハ本件ニ付テハ最近日本ノ新聞ニ報道セラレ居ルヲ散見セルノミニテ他ヨリ何等報告ニ接シ居ラス全然實情ヲ承知セサルニ付早速軍政部及財政部ニ問合せ改メテ其ノ結果ヲ通報スヘシト答ヘタリ依テ税警團暴行ノ事實竝ニ冒頭電後段我方ノ要求ハ之ヲ「メモ」トシテ直ニ外交部宛送付スヘキ旨ヲ約シテ一先ツ引取りタリ

北平、在支各總領事へ轉電セリ

~~~~~

澳鹽區ハ准。南地方ト異リ鹽ノ積置場無數ナルト鹽稅増徴決行直後ノコトトテ右人數ニテモ(脱)殆ト毎日アリ時ニハ四、五十名一團トナリ銃器ヲ携行スル者スラアル旨附言セリ(取締ニハ頗ル困難シ居レリ税警團ハ脱稅鹽取締カ本來ノ職タルニ鑑ミ一般脱稅貨物ノ取締等ニハ關與セス又青島入市ニ付テハ何等計畫サヘナキニ拘ラス日本新聞カ想像の記事ヲ掲載シ日支人ニ誤解ヲ與ヘタルヲ以テ真相ヲ明カニスル爲支那新聞ニ青島ニハ駐屯セサル旨ヲ發表シタルカ將來モ駐屯スルコトナキヲ聲明スヘシ尙本税警團ハ鹽田區域外ニハ駐屯ノ必要ナキヲ以テ城陽、南泉ニモ駐在シ居ラス鮮人壓迫問題ニ付テ種々誤解ヲ生シタルハ遺憾ナルカ實ハ棘。灘。事件ハ偶々新税警團到着早々ノ出來事ニテ即墨巡警カ毒品購入ノ支那人ヲ引致セントシタルコトニ端ヲ發シ鮮人トノ間ニ紛擾起リタル處團員カ土地ノ事情不案内ナリシト政府ノ禁毒方針遵奉ニ熱心ナル餘リ行違ヲ生シ税警團員カ鮮人ヲ團本部ニ連れ來リシヲ以テ早速釋放シタルカ鮮人等ハ毒品販賣ノ非ヲ悟リ自發的ニ青島ニ向ヒ退去セリトテ部下ノ非行ヲ認メ乍ラ責任回避的ノ言辭ヲ弄シタルカ(本官ヨリ嚴重追求ノ結果)結局責任ヲ自覺シ將來一層部

366

昭和12年6月4日

在青島大鷹總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

税警団本部において団長と意見交換し税警団  
は塩務取締以外の事項に干渉せず青島市内に  
は進入しないことを確認について

青島 6月4日後発

本省 6月4日前着

第一六一號

二日本官堀内、有野兩總領事、加藤書記官ト同行鹽田視察ヲ兼ネ摩天嶺方面ニ赴キ税警團本部ニ於テ丘團長ト會見シタルカ丘ノ本官ニ對スル應酬大要左ノ通り

税警第五團ハ總數約二千ニテ三營ニ分レ膠州灣沿岸鹽區一帯ニ配置セラル總團長黃杰ノ配下ニ屬シ財政部ノ指揮監督ヲ受ケ居レリ團員ノ武器服裝ハ税警獨自ノモノニテ中央ニ於テ制定シタルモノナリ税警團カ從前ノ緝私局員ト交代シタルハ既ニ二年前ヨリノコトナルカ最近迄駐屯シタル部隊(二千名)ハ訓練不充分ナルノミナラス居民トノ折合惡シキ爲海州ニ移駐ヲ命セラレ其ノ交代部隊トシテ第五團カ海州ヨリ來駐シタル譯ナリ人員ハ一見過大ニ失スルカ如キモ膠

下ノ取締ニ注意ヲ加フ可キ旨繰返シ居リタリ  
支、北平、在支各總領事へ轉電セリ

~~~~~

367

昭和12年6月6日

在青島大鷹總領事より
広田外務大臣宛(電報)

税警団問題への対処方針に関する陸海軍関係
者との協議内容報告ならびに今後の山東方面
權益維持に関する意見具申

青島 6月6日後発

本省 6月6日前着

第一六五號

往電第一四四號ニ關シ

在留日本人側ヨリ不用意ニ事ヲ起サシメサル様當地陸海軍側ト密接ナル聯絡ヲ持續シ且新聞記者ニモ充分慎重ヲ期セシメ居ル爲今日迄大體事ナキヲ得タル(只一回民團事務所ニ有志ノ會合行ハレタルコトアリ結局有耶無耶ニ散會セル由)次第ナルモ居留民有力者ノ意見ヲ綜合スルニ税警團到着以來當地トシテハ曾テ見サル程支那人ノ侮日態度顯著ニシテ日本人ニ對スル輕微ナル侮辱行爲ハ頻發シ居ル趣ニテ

又各所ニ抗日的「ポスター」ヲ發見スルコト頻々タリ尤モ取引關係ハ紡績ヲ始め如何ナル部門ニ於テモ未タ妨害ヲ受ケ居ラサルモ今日ノ事態ニシテ此ノ儘推移スルニ於テハ日本側ハ山東ニ於テ一日ト萎縮スルノミナリト言フニ一致セリ

稅警團ノ引入ハ沈鴻烈ノ仕業ナルコトハ客月十四日有野總領事ト同道韓復榘ヲ往訪セル際韓ノ言明シタル所ナルカ右ハ韓トシテハ中央軍力稅警團ノ名ノ下ニ膠州灣芝罘羊角溝方面ニ配備セラレタルヲ極メテ不快視シ(武裝、兵力配備ニ鑑ミ韓ハ之ニ對抗スルノ實力ナキコトハ陸海軍側ノ見解一致ス)成ルヘク日本側ノ威力ヲ以テ之ヲ山東ヨリ驅逐セシメントノ魂膽ナルヤモ計リ難ク他方沈市長ノ稅警團引入ハ客年十二月當地ニ於ケル陸戰隊上陸事件ニ關聯スルモノト海軍側ハ睨ミ居ル次第ナルモ中央トシテハ沈ノ提議ヲ奇貨トシ北支中央化ノ工作ヲ進メタルモノナルコトハ疑ナカルヘク山西ノ中央化ニ成功セル支那ハ今ヤ全力ヲ擧ケテ山東ノ中央化ニ取掛リ依ツテ以テ冀察政權ノ沒落ヲ計畫シツツアルモノナルコトモ明白ニシテ支那側ノ立場ヨリスレハ今秋ノ國民大會ヲ控ヘ北支ノ中央化ヲ贊成シ憲法ヲ北支ニ

大戦誘發ノ危險モ少シトノ理由ヲ以テ萬一ノ場合ニモ山東以南及黃河以西ノ出兵ニハ強ク反對ヲ表示シ來レル次第ナルカ最近ニ至リ支那中央要人ノ宋哲元、韓復榘トノ往來頻繁ナルト日本側權益ノ進展カ一日ト阻止セラルル情勢ニ鑑ミ(山東奧地ノ要塞構築及鮮人壓迫ハ聽テ奧地ヨリ全面的ニ日本人追出ノ肚ナルヘシトノコトニ日本側見解略一致ス)下村司令官ハ二日當地陸、海、外務出先官憲打合會ニ於テ此ノ際日本トシテ荏苒日ヲ過スヘキニアラス先ツ何等カノ警告ヲ支那側ニ與フルノ要アルヘキコトヲ提議セルニ依リ

本官ハ
(一)問題ノ性質上警告ハ沈市長ヲ相手トスルモ效果少カルヘシ蓋シ稅警團カ青島ニ入ラストモ青島以外ノ各地ニ充實セラルルニ於テハ結局日本側トシテハ間斷ナキ脅威ヲ受クヘク山東、北支ノ中央化ハ之ヲ阻止シ得サルヘケレハナリ

(二)條約上中央軍正規兵ノ山東配備ヲ拒否スルノ根據ナキヲ以テ警告ハ飽迄政治的ノモノナラサルヘカラス
(三)依テ山東ノ特殊性ニ鑑ミ南京ニ於テ山東ヨリ中央軍正規

適用シ支那統一ノ實現ヲ期スルモノナルヘク從テ稅警團問題ハ青島ノ局地問題ニアラスシテ山東乃至北支全面ニ影響アル大問題ナルカ故ニ一度當地ニ武力衝突發生スルニ於テハ上海事變トハ例ヲ異ニシ恐ラク北支全部又ハ日支全面衝突ヲ招來スル惧アルコトニ付テモ陸海軍皆一致スル所ナリ出先陸軍側ニハ稅警團一度青島ニ入市スルコトアラハ軍隊ヲ出動セシムル内議アル由ニテ右ハ既ニ中央ニ傳達濟ノコトト想像セラルル次ニ海軍側ニ於テハ丘之紀ノ指揮スル兵力(沈市長ハ千五百ト確言シ丘ハ約二千ト答ヘ又丘ヨリ護謨足袋ノ注文ヲ受ケタル商人ハ二千五百足ヲ供給セル由)及武裝、支那第三艦隊陸戰隊並ニ支那民衆ノ軍隊教練其ノ他ノ抗日的事情ニ照ラシ現在ノ日本側警備兵力ニテハ到底責任ヲ果シ得サルヲ痛感シ旅順方面ニ軍隊又ハ陸戰隊ヲ極秘裡ニ駐屯セシムルノ案ヲ上申スル意嚮アリ

陸海軍側ノ意嚮ヲ綜合スルニ愈々當地ニ於テ日支民力衝突ヲ見シカ杭州其ノ他ノ飛行場ノ爆撃及揚子江下江ノ一點迄軍ヲ進ムルノ必要アル模様ナルニ對シ本官ハ山東ナラハ兎モ角英米ノ權益ノ見ルヘキモノナク然ルニ我權益ハ五億圓餘ニ評價セラレ居リ且山東還附ノ歴史因緣モアルニ付世界

兵ノ引揚方ヲ求メ事態ノ危險性ニ關シ支那側ニ警告ヲ與フルコト穩當ト思考セラルルモ警告ニシテ毫モ聽カレサル場合政府ニ於テ飽迄警告ヲ聽カシムルノ斷乎タル決意ナキ限り徒ニ日本側ノ「プレステージ」ヲ傷ケ支那側ノ此ノ上ノ増長ヲ招クノ惧アルヘキコト

ヲ指摘シタル處陸海軍側モ贊意ヲ表シ結局當地陸、海、外務出先官憲ヨリ夫々中央ニ對シ

(一)支那側ヘ不祥事勃發ノ危險ヲ防止スル爲稅警團組織復舊方(丘之紀ノ説明ニ依ルモ從前ノ稅警團ハ約千名ニシテ且正規兵ニアラサリシモノナリ)ヲ申入レシメ萬一事件發生ノ場合ニ於ケル支那側ノ責任ニ付注意ヲ喚起シ置クコト

(二)日本内地及歐米各國ニ於テ山東ニ於ケル支那側ノ挑戰的態度ヲ徹底ノ宣傳シ世界輿論ノ注意ヲ喚起シ置クコトヲ上申シ政府ノ慎重ナル考量ト決意ヲ促スコトニ申合セタリ

申ス迄モナク北支ニ於ケル情勢並ニ對策ニ關シテハ政府ニ於カレ各出先機關ノ意見ヲ徵シ慎重御考慮中トハ存スルモ冀東冀察ノ還元ハ重大ナル事由ナキ限り今日ニ於テハ最早

實行不可能ノ域ニ達シ居ルモノト見ルノ外ナク然ルニ支那側ノ實力の威壓ニ依リ之カ解消ヲ見ルニ至ラハ日本ニ對スル北支住民ノ信用ハ地ヲ拂ヒ支那ノ傲慢益々募リ延テ滿洲國存立ノ基礎ヲ危クスルニ至ルハ明白ナルノミナラス山東ニ於テ條約上有スル我カ權益モ到底之レカ保護ノ全キヲ期スル能ハサルヘク他方左レハトテ國際關係ノ現情ニ於テ日支全面ノ衝突ハ能フ限り之ヲ避ケサルヘカラス殊ニ山東以南及黃河以西ニ迄兵力ヲ進ムルカ如キハ我方ニ極メテ不利ナル國際情勢ヲ捲起シ世界大戰ニ至ラストモ先ツ我外國貿易ノ上ニ打撃ヲ蒙ルヘク次ニ南支一帯ノ執拗ナル排日「ボイコット」ハ勿論揚子江一帯ノ邦人ノ生命ノ危險ヲモ充分覺悟セサルヘカラスルニ付政府ニ於カレテハ如何ナル出先機關ノ意見アリトモ亦如何ナル場合ニモ兵力ノ發動ハ北支以外ニハ及ハサル様出來得ル限り限局セラルルコトハ第一ノ條件ナラスヤト思考セラル尙愈々政府ニ於カレ稅警團問題ニ關シ支那側ニ警告ヲ發セラルルコト相成ル場合或ハ支那側ニ於テ得意ノ宣傳方法ニ依リ日本ノ北支ニ對スル野心ニ對シ大々的運動ヲ起スコトアリトスルモ我方ニ於テ毅然トシテ北支ノ安定ヲ策シ冀察冀東ヲ救ヒ山東ノ權益ヲ擁

中央相手ニ交渉スルモ期待スル效果ハ擧ケ得サルヘク之ニ反シ地方政權相手ニ嚴重交渉スル方實際的解決ヲ付クルニ便ナルヘク山東ノ特殊性ヲ強調スル上ヨリモ又韓ノ立場擁護ノ上ヨリモ此ノ方都合ナルヘシ唯何レノ警告乃至要求タリトモ支那側ニ對シ口先ノ談判丈ケニテハ應諾セサルヘク政府ニ於カレテハ相當ノ決意ヲ固メラルルコト必要缺クヘカラスル所ト存セラルルノミナラス支那側ヨリ我ニ對シ友好的態度ヲ示シ互讓妥協ノ道開カルルニ先チ我方ヨリ一方的ニ親善ヲ唱ヘ又ハ實力ニ訴ヘサルカ如キ意味合ノ聲明ヲ爲スコトアラハ遂ニハ收拾シ難キ事態ニ導クノ惧アルニ付充分此ノ上共御警戒ヲ仰度ク以上僭越乍ラ當方面ノ實狀ニ鑑ミ卑見申進ス

368

昭和12年6月9日

在青島大廳總領事より
広田外務大臣宛(電報)

稅警團の山東省内配備狀況などに関する青島方面駐屯稅警團團長の説明振りについて

青島 6月9日後發
本省 6月9日夜着

護シ滿洲國ノ基礎ヲ固メ得ルニ於テハ支那ノ其ノ他ノ部分ニ於ケル我方發展ヲ暫ク犠牲ニ供スルモ亦眞ニ餘儀ナキ所ナルノミナラス現在ノ儘ノ情勢ニテハ一步一步後退ヲ餘儀ナクセラレ支那側抗日ノ氣勢ヲ日一日ト強ムルノミナラスト存セラルルヲ以テ支那側宣傳ヲ惧ルルヨリモ寧ろ我方ヨリ支那側ノ脅迫的態度ニ關シ進テ内外ニ之ヲ宣傳スルコト得策ナラスヤト思考セラル

日本ニ取リテハ茲五年、十年ト平和時代ノ續ク限り國力一層充實セラルヘク其ノ間國際環境ノ我ニ取リ一層有利ナル時機モアルヘク隱忍自重ノ最良策ナルコトハ問題ナキモ當方面ノ實情ハ上述ノ通り漸次危險性ノ増シ來リ居留民ノ靜觀的態度ハ此ノ儘長ク之ヲ持續セシムルコト到底困難ト存セラルルヲ以テ前記陸、海、外務出先申合ヲ篤ト御諒察ノ上山東現狀維持方策ニ關シ然ルヘク御措置御配慮相仰度シ追テ稅警團組織復舊ノ代リニ稅警團ノ指揮監督ヲ韓復榘ノ手ニ移サシムル要求モ一案ナラスヤト存セラルル既ニ南京發閣下宛電報第三三四號及第三三五號ニ依リ御承知ノ通り中央要人ハ兎角地方ノ實狀ニ敏活ヲ缺クカ又ハ殊更ニ實狀ニ疎キヲ裝ヒ居リ從テ今後稅警團ニ關聯アル突發事件ノ爲一々

①第七四號

往電第一六一號ニ關シ

九日丘團長答禮ノ爲本官ヲ來訪シタルカ其ノ會談中參考トナルヘキ點左ノ通り

「本官ヨリ日本側ニ於テハ稅警團來駐ニ關シ多大ノ關心ヲ拂ヒ居ルヲ以テ日本人ニシテ駐屯地帶一帯ヲ視察スル者多數アルカ其ノ都度稅警團員ヨリ誰何或ハ通行ヲ阻止セラレ居ル趣ナリ右ハ徒ニ日本人ノ感情ヲ刺戟スルノミナラス稅警團本來ノ職權ヲ越脱シタル行爲ナレハ今後ハ斯カル行爲ナキ様部下ニ訓令相成度キ旨申入レタル處丘ハ日本側カ稅警團ニ關心ヲ持チ居ルコトハ充分承知シ居リ又本團ニ關シ誤解セラレ居ル向アルヲ以テ實狀視察ハ歡迎スル所ナリ從テ之ヲ阻止スルカ如キコト萬ナキモ何分部下ノ中ニハ知識淺薄ノ者モアリ旁々言語ノ不通ヨリ何等行違ヲ生セハ甚タ遺憾ニ付事前ニ通知願ヘレハ幸甚ナリト答ヘタルヲ以テ本官ハ視察ノ都度通報スルハ煩ニ堪ヘス殊ニ白晝天下ノ公道ヲ身分アル日本人カ自動車ニテ往來スル以上鹽ノ脫稅者ニアラサルコト明瞭ナルヲ以テ自由通行方部下ニ訓令セラレ度シト再應申入レタルモ丘

ハ鹽區内ヘノ外來者ハ内外人ニ限ラス一應誰何シ居ルニ付中止不可能ナリト頑張りタリ

ニ、本官ヨリ稅警團員ノ俸給不渡說アル處眞僞如何ト尋ネタルニ丘ハ右様事實ナク財政部ヨリ支給セラルル月額三萬元ノ經費ニテ完全ニ賄ヒ居レリト答ヘタリ

三、次ニ本官ヨリ芝罘、羊角溝ニ稅警團配置セラレ居ル由ナルカ山東省内ニ右以外ノ地點ニ稅警團ノ配置セラレ居ル地點アリヤト尋ネタルニ丘ハ芝罘方面ノ稅警團ハ福建、廣東方面ニ駐屯スルモノト同性質ノ地方在來ノ稅警團ニテ財政部ヨリ間接的ノ指揮ヲ受ケ居ルモ自分トハ何等ノ連絡ヲ有セス財政部直屬ノ分ハ浙江、江蘇(海州)、河南及膠州灣一帶ニ駐屯シ居レリ(ト答ヘタリ)

四、本官ヨリ稅警團駐屯以來山東方面ノ抗日風潮熾烈トナリタル感アルモ稅警團ハ中央ヨリ何等特別ノ訓令ヲ受ケ來レルヤ又團員中ニハ舊十九路軍編入セラレ居レリトノ說アル處眞僞如何ト問ヒタルニ丘ハ稅警團ハ緝私事務以外ニハ何等ノ命令ヲ受ケ居ラス又人民ニ抗日ヲ煽動スルカ如キコトナシ自分ハ偶々廣東生レナル爲舊十九路軍ヲ率ヒ居ルヤノ誤解アラランモ自分ハ元來中央系ニシテ又團員

ノ他一度青島乃至ハ山東方面ノ治安ニ動搖ヲ來スカ如キ場合ニハ直ニ其ノ實力ヲ前記範圍外ニ活動スヘキハ想像ニ難カラス

三、然ルニ右稅警數ハ二千餘、其ノ裝備モ頗ル優秀ニテ支那側力如何ニ辯明スルモ膠澳鹽區ノ製鹽取締ニ對シ必要以上ノ武力タルコト明カニシテ現ニ同鹽區ノ主管官憲タル李鹽務管理局長サヘ此ノ點ヲ認メ居ル(往電第一二二號)次第ニテ從テ斯ノ如キ強大ナル武力ノ配置ハ其ノ目的トスル所日本側ノ牽制及韓復榘政權ノ監視乃至牽制ノ爲ナルコト往電第八五號韓ノ内話ニ徴スルモ推斷ニ難カララン殊ニ韓ハ本稅警團ノ配置ヲ相當苦ニシ居ルモノノ如クハ日本官會見ノ際再ヒ右往電ノ次第ヲ繰返シ同人トシテハ中央ノ命令ナル爲阻止モ反對モ出來サルモ本件カ同人ニ對シテモ一種ノ脅威ナル旨訴ヘ此ノ際日本側ニ於テモ何等カノ「ステツプ」ヲ執ルコトヲ期待シ居ルカ如キ口吻ヲ洩シ居タリ

三、事情右ノ如キニ付本件ハ抗議又ハ要求等ノ提出ニハ理論的根據薄弱ナリトスルモ此ノ際南京政府ニ對シ「斯ノ如キ強力ナル稅警團ノ配置ハ其ノ目的鹽務取締ノ爲トノミ

ハ概ネ北洋ヨリ新ニ募集シタル者ヨリ成リ第十九路軍出身ハ皆無ナリト答ヘタリ

支、在支各總領事、北平ヘ轉電セリ
支ヨリ南京ヘ轉報アリタシ

369 昭和12年6月12日

在濟南有野總領事より
広田外務大臣宛(電報)

稅警團の兵力を既往の程度に縮小するよう中

国側へ警告すべき旨意見具申

濟南 6月12日後発

本省 6月12日夜着

第二二三號

青島發閣下宛電報第一六一號ニ關シ

一、稅警團力製鹽ノ取締以外ノ事項ニ干渉セサルコト、鹽區以外ノ土地ニ駐屯セサルコト、青島市ニ入市セサルコトノ三點ハ丘團長ノ言明ニ依リ一應明瞭トナリ從テ當分ノ間公然入市又ハ邦人ニ對シ壓迫カマシキ行爲ニ出ツルカ如キコト先ツナカルヘシト認メラルル處右ハ政情安定ノ場合ニ限ルヘク例ヘハ客年末ノ紡績罷業ノ場合ノ如キ其

解スルヲ得ス(既往ノ配置數往電第一二二號ノニ、參照)其ノ數日本一般ノ輿論ヲ刺戟シ殊ニ所屬稅警ノ抗日意識熾烈ナル爲青島及山東ノ在留邦人ニ對シ甚タシク不安ト脅威ヲ感セシメツツアリ兩國國交ニ一種ノ暗影ヲ投スルモノニシテ其ノ結果將來何時不測ノ事件ヲ惹起スルカ測ラレス」等ノ理由ヲ以テ今一應嚴重ナル警告ヲ發シ支那側ヲシテ自發的ニ其ノ配置ヲ既往ノ兵力程度ニ減少セシムル様反省措置セシムルコト必要ナリト存ス尤モ右稅警團ニ對シ支那側力遽ニ之ニ應スヘシトハ考ヘラレサルモ假令之ニ應セストスルモノニ依リ將來事件發生等ノ場合ニ於ケル責任追究ノ根據ト爲シ得ヘク相當効果アルモノト思考セラル

本件ニ付テハ折角御考究中ノコトトハ存スルモ前記韓復榘及李ノ内話等ニモ鑑ミ敢テ卑見申進ス(以上石野武官トモ打合濟)

尙本官先般青島出張中堀内總領事ト共ニ下村第十戰隊司令官訪問ノ際同司令官ハ本官ノ右意見ニ對シ贊意ヲ表シ是非トモ此ノ程度ノ「ステツプ」ヲ取り度キ旨申シ居タリ併セテ御參考迄

支、北平、在支各總領事へ轉電セリ

370 昭和12年6月12日 在青島大鷹總領事より
広田外務大臣宛(電報)

税警団問題に關し海軍側は万一を考慮し青島
の海軍連絡隊増員などを決定について

青島 6月12日後発
本省 6月12日夜着

第一八四號

往電第一六五號ニ關シ

海軍側ヨリノ通報ニ依レハ今般海軍省ヨリ當地海軍武官ニ
對シ税警團ノ青島入市及山東各地ニ於ケル對日防備強化ノ
如キ日本側ヲ刺戟スル行動ノ阻止方ニ關シテハ極力外交交
渉ヲ以テ之ニ當ルモ萬一ヲ慮リ當地海軍聯絡隊強化ノ爲特
准以下十八名ノ増員、旅順ニ爆彈準、第十戰隊司令部ニ外
信傍受設備ヲ爲スコトニ決セル旨入電アリタル趣ナリ既ニ
御承知ノコトトハ存スルモ爲念

371 昭和12年6月15日 広田外務大臣より
在濟南有野總領事宛(電報)

中国側に対する税警団の兵力復旧申入れは行
わないので從來どおり青島市内進駐阻止のた
め中国側へ執拗に注意喚起方訓令

本省 6月15日発

第四三號

貴電第一二三號ニ關シ

六月六日發極秘電ヲ以テ在青島總領事ヨリモ現地我方官憲
一致ノ意見トシテ

(一)支那側へ不祥事件勃發ノ危險ヲ防止スル爲税警團組織復
舊方ヲ申入レシメ萬一事件發生ノ場合ニ於ケル支那側ノ
責任ニ付注意ヲ喚起シ置クコト

(二)日本内地及歐米各國ニ於テ山東ニ於ケル支那側ノ挑戰的
態度ヲ徹底的ニ宣傳シ世界輿論ノ注意ヲ喚起シ置クコト
ノ二點上申アリ右ニ對シ當方ニ於テハ青島ノ空氣其ノ他諸
般ノ關係ヲモ考慮シ軍側トモ協議ノ上(一)ノ點ハ同感ナルカ
(一)ノ税警團復舊方申入レノ點ハ萬一ノ場合我方ニ於テ實力

ヲ行使スル丈ノ覺悟ナキ限り目的達成困難ト存セラルルニ
付テハ此ノ點ニハ暫ク觸レサルコトトシ引續キ青島宛往電
第六七號ノ「ライン」ニ依リ事態ノ不擴大特ニ青島入市阻
止方ニ付熱心且執拗ニ支那側ノ注意ヲ喚起スルコト可然旨
回訓シタル經緯アルニ付詳細青島ト御連絡ノ上右方針ニ基
キ極力善處アリタシ尤モ南京ニ於テ本件ニ關シ撤退要求ニ
非スシテ支那側將來ノ責任ヲ問フ意味合ニテ隨時適切ナル
警告ヲ與フルハ事宜ニ適スト認ム

支、北平、在支各總領事ニ轉電セリ

372 昭和12年6月15日 在青島大鷹總領事より
広田外務大臣宛(電報)

青島居留民による自衛組織の拡充が陸海軍の
申合せに基づき行われている旨報告

青島 6月15日後発
本省 6月15日夜着

第一九二號

從來當地ニ於テハ隊員百二十名位ノ小規模ノ義勇隊アリ一
種ノ自警團ノ如キ任務ヲ有シ居リタルカ今般北支駐屯軍司

373 昭和12年6月17日 在青島大鷹總領事より
広田外務大臣宛(電報)

青島居留民の不安解消には税警団の減員が必
要な旨を沈市長へ説示について

青島 6月17日後発
本省 6月17日夜着

第二〇〇號

十七日沈市長ト懇談ノ機會ヲ得本官ヨリ今回ノ税警團ノ膠
澳塩區増員配置ハ市長ノ指金ニ依ルモノナリトノ情報專ラ
ニシテ市長攻撃ノ新聞記事ニ餘リ注意ヲ拂ハサル識者階級
モ此ノ點ニ於テ市長ノ遣方ニ對シ深キ不滿ヲ抱キ居リ從來
市長ニ大ナル好意ヲ有シタル海軍側モ警備ノ責任上對策ニ

付相當考慮ヲ要スヘシトノ意嚮ナルカ事態此ノ儘ニ推移スルニ於テハ日支間ニ取返ノ付カヌ不祥事件發生スルヲ保シ難シ元々市長ハ最近迄我居留民中ニモ名市長トシテ其ノ繼續在任ヲ希望スル者モ少カラサリシ次第ナルカ此ノ際市長ニ於テ税警團問題ニ關シ我方ノ警告ヲ聽キ誠意ヲ披瀝スルニ於テハ陸海軍側ニ於テモ市長擁護ニ吝ナラサルヘキニ付一大決意ヲ以テ其ノ善處方ヲ切望スル旨ヲ述ヘタルニ市長ハ是迄ニナキ眞劍ナル面持ニテ(指金云々ノ點ハ否定セス)税警團カ青島ニ入市セサルヘキコトニ關シテハ今迄貴官ニ確約ハセサリシモ入市セサルコトノ確報ヲ得居ル旨ヲ述ヘタルカ税警團ノ入市、不入市ノ問題ヨリハ青島ノ喉元トモ言フヘキ場所ニ有力ナル税警團員ノ頑張り居ルコトカ青島不安ノ因ヲ爲スモノナレハ此ノ不安ヲ除去スル爲團員ヲ減員スルコトカ根本問題ナル旨ヲ繰返シ説明シタルニ市長ハ自分ハ孔祥熙ト昔カラノ知合ナルニ付同人英國ヨリ歸國後ハ本件ニ關シ進言スルコトトスヘシト述ヘタリ(右外部ニ漏レサル様御注意相成度シ)

不安ハ蔽フヘカラサル事實ナルヲ以テ支那側ニテ深甚ノ考慮ヲ拂フ必要アル旨力説シ置ケリ
北平、在支各總領事ヘ轉電セリ

374

昭和12年6月21日 在中国日高臨時代理大使より
広田外務大臣宛(電報)

青島税警團の武力が必要以上に強大なる点などを指摘し居留民の不安解消に深甚なる考慮あるよう高宗武へ注意喚起について

南京 6月21日後発
本省 6月21日夜着

第四三九號

貴電合第三八一號ニ關シ(税警團ニ關スル件)

本官十八日高宗武ト會見ノ際貴電ノ御趣旨ヲ申入レ注意ヲ喚起シタル處高ハ本件ニ關シテハ過日御申出アリタルニ依リ自分ヨリモ豫テ昵懇ノ黃杰ニ對シ實狀ヲ問合セタル處同人ヨリ税警團ハ青島入市ノ計畫ヲ有セサル旨竝ニ丘團長ハ對外折衝ニモ心得アリテ堀内總領事等一行來訪ノ際モ快ク會談セルカ如キ人物ナル旨委細報告アリ從テ何等事件發生スルカ如キコトナカルヘシト述ヘタルニ付本官ヨリ同團ノ武裝力必要以上ニ強大ナル點及團數力從前ノ三倍ニモ達シ居ル點竝ニ其ノ駐在地カ青島市ノ咽喉ヲ扼シ居ル點等ヲ指摘シ其ノ一般ニ對スル脅威及之ニ依リ惹起セラルル人心ノ